



選樹法

全

大藏省
翻譯課

834



114
A3858



次

緒言

第一章

選樹ニツキ前ニナスベキ経験

第二章

大木ノ小木ニ被ラシムルトコロノ損害

第一

形態ニ現ハル、損害

第二

價値ニ現ハル、損害

第三章

大木ノ庇蔭ニ於テ定ムベキ最大ノ限界

第四章

小木ニ於テ保存スベキ大木ノ樹ノ齡

大

歳

目

茅一 経験

茅二 山毛櫸

茅三 シヤルム

茅四 青剛樹

茅五 木賃、将来、臆貴

茅五章

擇テ保存スベキ樹

茅六章

選樹ノ方法ト年齢及ヒ種類ニヨリテ最モ利益アル樹
ノ養育ノ一致スベキ情由

茅一 自然ノ播種

茅二 叢樹ノ混淆

茅七章

選樹ノ方法ノ制定

茅一 選樹ノ本ナル小木ノ数

茅二 斬伐スルノ宜シキ齡ニ達スベカラサルトコロ
ノ貯樹ノ数

茅三 一エクタールニツキテノ選樹ノ方法

茅四 注意

茅八章

修善

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

選樹法

緒言

服部徳譯

曾テ外国ノ或森林者各人ニ属スル「テイリ」スウ「フエテイ」大木
 トナ^ルビキ小木ノ選樹ノ法ヲ余ニ問ヒ而シテ此法ノ論理ヲ一例
 ノ上ニツキテ明ニセン「ヲ余ニ請フ此ニ於テカ余思ヘラク此
 選樹ノ法ノ難事ニ歎シ而シテツレニ勝テ治森者ノ作用ノ阻礙
 セラレサルベキ法ニ於テツレヲ羈絆スルタメニ余此戰場ニ奮
 撃シテ彼ノ森林者ノ望ニ應スル「ヲ實ニ法國森林者ノ禮貌」
 ヲ謂フベシ

余ヲ此企意ニ就シムルノ前ニ彼ノ大木トナスベキ小木ノ暗昧
 中ニ於テ誘導セラル、為ニ先或名家ヲ查出セヌンバ有ベカラ
 ス余ノ論セントスルトコロノ選樹ノ題目ニツイテ許多ノ名家
 既ニ之ヲ考究ス然レモコレ皆ツノ困難ヲ錯乱シタルノミニシ

大隈侯爵

テソレヲ辨破セズ常ニ浅少ノ觀察私許ノ論説ニ因テ都テ虚偽ノ結果虚偽ノ法ニ撞着スレラフミエルビエフホシジエハメー
ルヴァレンヌトフエニール及ヒノアロホン子此題目ニツイテ
是トシタル説ノ如キハ余快誕ナリトシ之ヲバリーコレガ人性ノ
謬誤ヲ纂メシ地獄放逐スベキトコロノ説ト云フベシ他ノ名
家ベルケエイフロアドツウルテレーガコスタ及ヒドテレノ如
キハ小木ノ選樹ニツイテ最モ正直ナル意見ヲ發シタルモノナ
リ然レモ其意見ハ余ノ題目ヲ辨明スベカラズコラン及ヒバラ
ラードハ其「グウル、ド、レ」ルガヒキムルチユール（森林論）ニ於テ極
善ノ道理ヲ述フト虽モコノ説各人ニ属スル森林ニ違当スベキ
選樹ノ方法ヲ整フルモノニ非ズ治森者ニ緊要ナル此題目ハサ
ロモンタツシイモ亦之ヲ辨明セサリキサロモンハ其「ドレイテ、
ジユール、ニメナージエマン（治森説）」ノ中ニハ此題目ヲ遠ケテ公

い
分

同ノ利益ヲ害スベキモノト謂ヘリタツシイハ其英名ナル「エテ
ウド（森林学）」ニ於テハコレヲ辨明スル能ハザルベシトスルモノ
、如シ此題目終ニ我先師ナンケットノ「グウル、ダメナトジエマ
ン（治森総論）」ニ於テ論成セラル、トコロトナレリ余ハ小木ノ保
存ヲ管理スル人ニ教誨スル蓋シコノ総論ヲ師法トシテ講述ス
ルニアルベシ

第一章

選樹ニツキ前ニナスベキ経験

或森林ノ選樹ノ法ニ定メント欲スレハ此森林或ハコレト等シ
ク且同シ地勢ノ諸ノ森林ニテ種々ノ選樹ニ於テ現ハレタル效驗
ヲ察定スルヲ緊要ナリトス余「シエルシエシエ、レー、テイリ
」スウ、フエテ「各」ト題セシ小冊子ニコノ察定ノ緊要ナル「及
ヒコレヲ施ス方法」ニツキ先キニ論ズス故ニ此ニコレニツキテ

大
義
目

論述スベカラズ

右ニ云フ事ノ明了ナランガ為ニ一例ニツキ論理スルニエヒエ
ノ森林ヲ以テスベシ此森林ハ我ガエフコウルウルノ地ニ海
面ヨリ高キヲ四百メートルノ平地ニアルモノナリ而シテ此平
地ノ質ハ卵石土^{ミズトムキリキリ}ノ層ニ属スベシソノ植物土ハ石灰質石ノア
ル黏泥ヨリ成リ樹根ノ突入セガル石灰質ノ石層ノ上ニアリテ
深サ四十センチメートルトシテ過キス而シテ甚ク乾燥ニテ又ソノ
肥饒ハ中等ナルベシ此森林ハ每二十九年ニテイリリ、スウ、フエ
テイ^イ大木トナスベキ小木ヲ斬伐セラル其小木十分ノ八ハソイヤ
ル十分ノ一ハ山毛榉十分ノ一ハ青割樹、白楊樹、楊柳、茨、圓栗樹
ヨリ成レリ山毛榉、青割樹及ヒソヤルハ大木ヲナス又家畜ハ
コニ牧養セラレズ且野獸モ甚ハタ稀ニシテ森林ニ損害ヲナ
スナシ

斬伐スベキ樹ニ打号スル時ニ於テ余觀察ヲナシタリシカ一
八百六十一年ニ斬伐シタル林区ニハ大木甚ハタ多シ然ルニ一
千八百六十二年ニ斬伐シタル鄰傍ノ林区ニハ大木甚ハタ少ナ
シ此林区ノ面積第一ハ四「エ」クタル^一方^一ハ千九百^一尺積九十二「ア」
タル^一千八百九十^一尺積^一アリ第一^一方^一ハ千九百^一尺積九十二「ア」
地ノ肥饒及ヒ樹ノ繁殖ハ各々異ナラズ此ガノ宜シキ原因アル
、故ニ余以テ選樹ノ法ヲ考究スルヲ得各々ノ林区ニ於テ伐
木ノ時余ハ大木ノ庇陰ヲ窺シコノ大木ノ立方積ヲ測リ二十五
年以後、ソノ増長ニ知リ伐取セラレタル小木ヲ別ニ碎破セシ
メ其高ヲ知リ其立方積ヲ窺シ又貯樹トシテ保存セラレタル小
木ノ立方積ヲ測リ然シテ如此ク得タル結果ヨリ左ノモノヲ造
出ス

伐木ノ時毎エタル大木ノ樹數及ヒ齡

齡										
大木ノ最ノ多キ林區										
五〇	二二五	二〇〇	一七五	一九〇	一二五	一〇〇	七五	五〇	九	一四
青割樹										
山毛榉										
シヤルム										
九	一	二	三	五	九	七	七	六	一七	二八
一四				一	二	一七	一八	二二	二	二
一九						二	八	一一	二	二
大木ノ最モ少ナキ林區										
五〇	二二五	二〇〇	一七五	一九〇	一二五	一〇〇	七五	五〇	九	一四

毎エツタルノ底蔭										
一七五	一九〇	一二五	一〇〇	一七五	二	三	四	四	四	二
青割樹										
山毛榉										
シヤルム										
合										
一七五	一九〇	一二五	一〇〇	一七五	二	三	四	四	四	二
一八〇	二二〇	一〇〇	一〇〇	五〇						
大木ノ最モ多キ林區										
大木ノ最モ少ナキ林區										
一八〇	二二〇	一〇〇	一〇〇	五〇						
一二〇	一七〇	二〇〇	三〇〇	三一〇						

毎日ク、ル年々ノ平均ノ增長

青剛樹	山毛榉	シヤルム	總大木	小木	合
ノートル 0.71	大木	最モ多キ林區	0.29	0.25	3.05
0.39	大木ノ最モ少ナキ林區		1.81	2.78	4.59

芽二章

大木ノ小木ニ被ラシムルトコロノ損害

芽一 形體ニ現ハルノ損害

前章ニ挙ケタル表ニツイテ察スルトキハ木ノ總增長ハ小木

俱ニ培養ヲラル、大木ノ多寡ト全ク關係セザルヲ知ルマシ
 又コレニ因テ大木ノ增長ト小木ノ增長トハ互ニ偏立スベカラ
 ガルヲ知ルベシ然リト雖モコノ法ヲ定メタル後余之ヲ確然
 普通ノ法ト見做サバ、又云ハザルベカラズ即チ此法ハ大
 木ノ性質ト小木ノ性質トニ随テ自ラ変スルモノト云フヲ得
 故ニコノエビエトノ森林ノ地ニ於テハ山毛榉ハ地質ニヨク適
 シ又ソレガ為ニヨク生長ス青剛樹ハ一タヒ幼木ノ齡ヲ過キ其
 根ヲ生奈セントシテ什分ナル地ノ深キヲ要スルモ得ズ故ニ青
 剛樹ハ山毛榉ヨリ生長スルヲ最モ遅シシヤルムハソノ性質若
 樹ノ齡ノ始ノ山毛榉及ヒ青剛樹ト生長ヲ競フト雖モ既ニシテ
 ソノ生長ノ勢此ガノモヨリ甚ハタ微弱トナル又葉モ稀ナル
 涼爽ノ地ニ於テハ白楊樹小木ノ時甚ハタ速ニ生奈ス然レハ大
 木ノ茂キ庇蔭ニテハ必ズ枯死スベシ此ニ因テ之ヲ觀レバ

木ノ總增長ハ山毛榉ノ大木多キハ少シク増益シ青剛樹ノ大木多キハ少シク減少シ若樹ヲ過シシヤルムノ大木多キハ少シク減少スベシ此意見ハ都テ左ノ経験ノ結果ニヨリテ真確ニセラルモ、如シ蓋シコノ経験余ノ主意ト異ナルモノニ係ルト至モ余ノ論スル主意ノタノニ信憑トナス表準ヲ備フベシ或ハ然ラサルモ要切ノ表準トセザルベカラス

コムナルシイノ森林ノエビエリノ森林ト彷彿シタル地ニ於テ余ノ觀察ニタルニ三十三年ノ小木ハ山毛榉ノ最モ多キ大木ノ表面ノ百分ノ七十七ヲ蓋フ此小木ニ於テ三十三年ノ間一「エクタ」ノ總平均年々ノ增長五「メートル」立方四二ナリ即チ大木ノ增長三「メートル」立方六二小木ノ增長一「メートル」立方八一ナリ又コレト等シキ小木ハ山毛榉ノ最モ少キ大木ノ表面ノ百分

ノ三十五ノ僅ニ蓋フノミ此小木ニ於テ一「エクタ」ノ總平均年々ノ增長五「メートル」立方〇六ニ過ギズ即チ大木ノ增長一「メートル」立方五四小木ノ增長三「メートル」立方五二ナリ故ニコノ數驗ニヨリテ觀レバ木ノ總增長ハ小木ニ於テ山毛榉ノ大木ノ廣濶ナルニ随フト云フベシ此經驗ノ細目ハ上ニ云ヒシ層ノ中ニ記

載ス

左ニ述ルトコロノ增長ヲ知ルハ「エクタ」ノ森林ノ前ト等シキ情形ニシテ木ノ生發スル処ナリ然レモ此処ハ最モ淺薄最モ乾燥又太ハタ不饒ナル地ニアリ余此ニ於テ經驗ニタルニ一ノ小木ハ、ソノ齡七年ナリ而シテ十分ノ七八山毛榉十分ノ三ハ青剛樹ノ多キ大木ニ越出セラレ此小木ニ於テハ一「エクタ」ノ總平均年々ノ增長四「メートル」立方〇二ナルヲ認ム即チ大木ノ增長二「メートル」立方三七ハ木ノ增長一「メートル」立方六五ナリ又一ノ

大歳

小木ハソノ齡三十五年ナリ而シテ其他ハ前ト同シ然レモソノ
大木十分ノ四ハ山毛榉十分ノ六ハ青剛樹ヨリ形テツクラル此
小木ニ於テハ一「エ」タル此總平均年々ノ增長三「メ」ト此立方九
ニナル「メ」ヲ認ム即チ大木ノ增長一「メ」ト此立方八〇小木ノ増
長二「メ」ト此立方一「二」ナリ此ニ因テ之ヲ觀レバ總增長ニ於テ
減少アルハ小木ニ於テ青剛樹ノ大木ノ廣濶ナルニ随フマシ
ボククウルウルノ森林ニ於テ前ト類似スル処ニテ左ノ增長マ
知レリコノ処ハ唯最モ淺薄ナル地ニシテ土質ナホ最モ不実ナ
リキ小木ハ大低「シ」ヤル「ム」ヨリ形テツクラル又大木ハ多カラサ
ル青剛樹ヨリ形テツクラル余此ニ於テ認メシ「エ」クタル此總平
均年々ノ增長ハ三十年ニシテ三「メ」ト此立方一八ナリ又四十
五年ニシテ三「メ」ト此立方二二ナリ故ニ三十年ヨリ四十五年
ノ間ニ於テ木葉中ノ最モ多キ「シ」ヤルハソノ生發スルトコ

ノ土質不実ナリト雖モソノ增長ヲ堪「ル」モノ、如キ「メ」窺ヒ完
ルマシ此經驗ノ詳細ニ至テハ余森林年編ニ於テ一千八百六十
二年自一日至三月ノ号ニ掲擧シタリ
エサルノ森林ニ於テ余ノ考驗シタル処ハ上ニ云ヘル処トハ少
シク優美ナルモノナリ然レモコノ処ニ於テハ小木ノ二分ハ一
ハ「シ」ヤル「ム」ヨリナレリ又多キ中等ニアル大木ハ山毛榉及ヒ青
剛樹ヨリ形テツクラレタリシガ「エ」クタルニツイテ總平均年
々ノ增長ハ左ノ如シ
小木三十三年ノ齡ニ達シタルトキ四「メ」ト此立方五九ナリ又
五十六年ノ齡ニ達シタルトキ四「メ」ト此立方七四ナリ
此ニ於テハ「シ」ヤル「ム」ノ增長スルト「メ」表ハセル數ハ甚ハク詳カ
ナラス如何ニトナレハ此類ノ樹ハ樹叢中ノ實ニ少々ナル部
ヲ形テツクレバナリ且五十六年ノ小木ニ於テハ斬伐ヲ施サル

余ッノ成果ヲ実見シタリキ

モシテギイノ森林ノエビエーノ森林ニ類比スル処ニ於テ余觀
察シタル增長ヲ左ニヨツテ見ルベシ然レモ此処土質涼良又最
モ肥沃ニシテ小木ハ殊ニシヤルム及ヒ白楊樹ヨリ形チツク
ル其齡三十三年ナリ一ノ部分ニ於テハ大木小木ノ百分ノ六十
ニテ蓋フ即チ青剛樹ノ大木其百分ノ二十四山毛榉ノ大木其百
分ノ三十四シヤルム大木其百分ノ四ヲ蓋フ此部分ニ於テ知
ルトコロノ一「エ」クタル總平均年々ノ增長ハ五「メ」ト此立方六
六ナリ即チ大木ノ增長ハ三「メ」ト此立方六〇小木ノ增長ハ二「メ」
ト此立方六ナリ之ニ異ナリテ一ノ部分ニ於テハ大木小木ノ百分
ノ二十七ヲ蓋フ即チ青剛樹ノ大木其百分ノ三十三シヤルム大木其百分
ノ三ニ於テ知ルトコロノ一「エ」クタル總平均年々ノ增長ハ六「メ」ト
此立方六ニ及ヒ即チ大木ノ增長ハ一「メ」ト此立方七〇小木

ノ增長ハ四「メ」ト此立方三九ナリ大木ノ蓋ヘル少ナキコノ部
分ニ於テ總增長ノ增益ハ白楊樹ハツノ蓋ハル、一少ナケレハ
他ノ部分ノ如ク衰弱セラルノ故又山毛榉ヨリ生發スル最モ遅
キ青剛樹大木中ノ最モ少シキ部分ヲ占ルノ故ニ因ルベシ
エビエーノ森林ニ於テ余左ノ增長ヲ看出シタル処ハ地質子ノ
森林ノ地ノ処ヨリ少シク清涼且善美ナリ又小木ハ少数ノ白楊
樹ヲ含有ス而シテ其齡二十五年ナリ此処ノ一ノ部分ニ於テハ
青剛樹及ヒ山毛榉モシキ寛濶ヲ占ムルトコロノ大木小木ノ百
分ノ四十五ヲ蓋フ此部分ニ於テ觀察スルニ一「エ」クタル總平均
年々ノ增長ハ四「メ」ト此立方七八ナリ即チ大木ナリ即チ大木
ノ增長ハ二「メ」ト此立方八六小木ノ增長ハ一「メ」ト此立方九
二ナリ之ニ異ナリテ青剛樹及ヒ少数ノ若キシヤルムヨリ形チ
ツクタル、大木小木ノ百分ノ十四ヲ蓋フ一ノ部分ニ於テハ一

「エグタル」総平均年々、増長ハ四「メ」ト此立方九五ナリ即チ大
木ノ増長ハ〇「メ」ト此立方五五小木ノ増長ハ四「メ」ト此立方
四〇ナリ茅二ノ場合ニ於テ認ムル増長ノ少シク増益アルハ白
楊樹ハソノ益ハル、ソ少ケレバ善ク生祭スルノ故又大木ニ於
テ青割樹ノ寛濶少ナキニ因テ生スル総増長ノ増益ハ山毛榉ノ
ナキニ因テ生スル減少ヲ超越スルノ故ニ原クベシ
余実地ニ経験シ各種ノ大木小木ニ超出シテ総増長ノ上ニ現ハ
ストコロノ効験ヲ認メ而シテ最モ精密ノ推算ニ達スルマテハ
余ハ真理ヨリ少シク遠キニアリテ以上云ハル觀察ニ随ヒ大木
ニ超越サル、小木ノ増長ハ其齡ニ等シキ年数ノ間コノ大木ノ
ナス増長ヨリ殆ト減スベキヲ決スルヲ得ベシ

茅二 價值ニ現ハル、損害
形體ニ現ハル、損害ヲ論スル後小木大木ニ超過サル、ニ因

テ生スル價值ニ現ハル、損害ニ論及セサルベカラズ價值ニ現
ハル、損害ハ一ニ最モ徐々ニ生祭スルトコロノ小木ノ形體
ニ現ハル、減少ヨリ生ス又ニニハ此小木大木ニ超過セラレテ
生長スレハ其大サ少ナルベシ此場合ニ於テ一「メ」ト此立方
ニツキ其價值ノ賤シクナルヲヨリ生ス
小木ノ形體ニ現ハル、減少ハ知ルニ易シ如何ニトナレバ形體
ニ現ハル、減少ハ一年間ノ大木ノ増長ニ殆ト等シケレハナリ
此減少ノ位價ヲ得シト欲セ、其容ニ小木ノ一「メ」ト此立方ノ
價值ヲ乘ス可シ

右ニ論スル價值ニ現ハル、損害ハ余左ノ如クシテ其レヲ查出
スルヲ研究スエロエ、森林ニ於テ一千八百六十一年及ヒ
一千八百六十五年ノ伐木ノ時余大木百分ノ三十一ヲ蓋フトコ
ロノ林區ニ於テハ小木ノ一「メ」ト此立方ハ五「メ」ラント此立方

シチーハ、價値アリシガ之ニ異ナリテ大木ニ分、一ヲ整スト
コロ、林區ニ於テハ一ノト此立方ハ五ノランクニ過キサル
一ヲ確知スル此ニ論スル題目ニツキテハ余ノ経験ヲ大ハタ擴
張スル、時ヲ得サレバ少シク想像ニヨリテ估定スル大木小木
ニ整束セラレズシテ自主ニ生長スルトキハ一ノト此立方ノ價
値五ノランク六十七ガシチーハニ及フベシ

爰ニ余コノ思想ヲ施用畧載スベシ嘗テ大木ノ最モ多キ林區ニ
テ一五ノタル此總平均年々ノ增長ハ四ノト此立方ハ五ナル一
ヲ認ム即チ大木ノ增長ハ三ノト此立方ハ五ノ小木ノ增長ハ一
ノト此立方ハ五ノナリ此場合ニ於テ年々ノ平均ニテ小木ノ一
五ノタルハ大木ヨリ三ノト此立方ハ五ノ形體ニ現ハル、損
害ヲ受クベシ是左ノ如キ價値ニ現ハル、損害ノ本トナルモノ
ナリ

即チ $5,05 \times 5,67 + 1,50 \times 0,87 = 1,8,30$

或ハ此式ニ場ハ

$3,05 \times 6,7$ トスルモ亦同シ

譯者曰ク前ノ如キ式ニ於テ「 $5,05$ 」ト「 $1,50$ 」ト此立方ノ記号ナリ
「 $6,7$ 」ト「 $0,87$ 」ト記号ナリ後コレニ倣ハ

然リ而シテ余ハ此後ニナサントスルトコロノ測量ヲ易カラシ
ムルガ為ニ少シク真理ノ域ヲ去テ云ハ「 $5,05$ 」ノ森林ニ於テ
小木ノ二分、一ヲ蓋フ大木ノ樹ハ「 $1,50$ 」ト此立方ヲ以テ命シタ
ル此樹ノ一年ノ增長ノ數ニ「 $6,7$ 」ト「 $0,87$ 」ト乘スルモノニ等シキ
價値ニ現ハル、損害ヲ小木ニ被ラシムル「 $1,50$ 」ト余兼准スルヲ得
ベシ

ナンケットノ著ハ「 $5,05$ 」ト「 $6,7$ 」ト「 $1,50$ 」ト「 $0,87$ 」ト「 $1,8,30$ 」ト
ハ大木ノ小木ニ被ラシムルトコロノ損害ヲ知ルノ緊切ナル一
ニツキテ論ス然レバ此損害ヲ測算スルタメノ一法ヲ裁ニル

「ア」シ又余コノ題目ニツキテ特別ノ場合ニ於テツノ要ニキ
辨解ヲ加フルハ蓋シ此畧ヲ填滅セント欲スルニ在ルベシ

第三章

大木ノ庇蔭ニ於テ定ムベキ最大ノ限界

夫レ大木ハツノ保存宜シキヲ得レバ必ズ小木ノ成果ヲ増スベ
シト故ニ余小木ノ漸ク打却セラレシトスルヲ見テ豈ニ憂愁ヲ
憤起セサルベケンヤ此ニ方テ余ハ如何ナル極度ヲ以テ小木ノ
中ニ大木ヲ培養シ得ルヤヲ能考究セザルベカラズ
大木ノ甚ハタ夥多ナルハ小木ヲ变幻セシメ而シテ若樹トスル
タメニ尺クバカラザル苗ノ缺乏シテ羸弱ナル小樹トナスベシ
一ナリ又小木ヲ點々敗壞シテ恰モ大木ノ斬伐セラレテ空虚ヲ
遺スガ如シニナリ又ゴエノ森林ニ於テ余伐木ノ時大木小木
ノ蓋ヲトコロノ林區ニテ右ノ二旨義ニ本キテ觀察セ

カ繁茂スル庇蔭ヲナセル古樹ノ多キコノ大木小木ヲ歴シテツ
レニ發伸スルヲ得セシメサルコトハ實ニ甚ハタシク幼木トシテ
貯存セラルベキ苗ヲ什分ニ此小木ニ於テ看出ヌヲ得バカラサ
ルホドニ至ル然レモ甚ハタ大木ノ廣寬ナルニヨリテ小木ニ於
テ不斷ノ空隙ノ生セラレタルモノナシ家畜ハ此ニ牧セラレサ
レバツノ暴害ナク又野獸稀ニシテツノ暴害モ至テカナキ小樹
及ヒ種生ノ部分ニテ大木ノ庇蔭ニアリテ畜獸ノ堤防トナラザ
リシモノハツノ歯牙ニ觸壞セラレズ而シテ此部分ハ其中ニ多
キトコロノ大木ヲ伐除セラレタルトキ空虚生シ又日光射照ス
ルノ故ニ因テ夥シク發生ノ勢ヲ興シタリキ余ハ此觀察ト他ノ
コレニ彷彿スベキ地ニ於テ蓋畜シタルトコロノ觀察トヲ比較
シタリ但シ他ノ地ハツノ大木若キ樹ヨリ成ルモノトス然シテ
余決意シテ曰クエゴエノ森林ニ於テハ若キ又混スル大木ノ

庇蔭ノ最大限界ハ伐木ノ時林区ノ二分ノ一ト定ムベシ
先ニ余著ハスレシユルニシユルレ、タイノスワ、フユ、イ
各ニ於テ我地方ノ諸森林ニツキテ同様ノ意見ヲ既ニ登シタル
トナリ然ルニ今又此ニ於テコノ意見ヲ再ビ登スルハ蓋シ最モ
大ニ謙虚ヲ以テナリ如何ニトナレハ今日ニ至ルマデラン河ノ
両頭ノ諸ノ森林者ハ百般ノ原因大木ノ培養ノタメニ最モ益ス
ベキヲ知ラズシテ此大木ノ庇蔭ハ伐木ノ時林区ノ三分ノ一ニ
超過スベカラサルトナリ許執シタレバナリ又此森林者ハ大木ハ
小木合保ノ總成果ノ内ニテソノ三分ノ一ニ過クベカラサルト
ナリ許執ス但シツ、云ヘル説或森林ニツイテハ必ス道理アリト
スベク又多クハ森林ニツイテモ道理ナシト云フベカラス然レ
ハ余思ヘラク彼説ハソレヲ普通ナルモノトスルヲ能ハサルベ
シ又庇蔭ノ最大限界ハ各々ノ地方ニ於テ特別ノ経験ヲ施スニ

非サレハ定ムベカラズ
ナンケツト小木ノ管治ニツイテ緊切ナル一例ヲ共フルトコロ
ノ一章ニ於テ氏ソ、先覺者ノ定メタル限界ヨ庇蔭ニツキ許シ
タリ余ハ氏何為ガ我ガタメニ論兵セサルヤ遺憾トナリト云フ
バシ抑モナンケツトハ森林上ノ疑難ヲ論理スルトニ於テ卓絶
シタリシガ庇蔭ノ一題目ニツイテハ惜哉之ヲ論破セズシテ其
名ニ高ク植勢ヲ共フベキ辨解ヲナサバリシトナリ余謂ヘラク常
ニ甚ハタ不善ナル古キ経験ノ結果ニヨケルヨリハ必スヤ大ニ
此花解ニ信伏セザルモノアラシヤ
要シテ此章尾ニ云ハバ余ハ自ら許シタル主意ヲ登スルヲ得ベ
カラズ如何ニトナレバ实效ナキ管治ニ森林ノ業ヲ委スルトナ
クシテ而シテ森林ノ發生ノ上ニツノ隱密ヲ看破シテ以テソレ
ヲ培養スルヲ得セルムベキ新ナル経験ニテコノ業ヲ進益スル

ヲ欲スルガ故ナリ

第四章

小木ニ於テ保存スベキ大木ノ樹ノ齡

第一 経験

大木ノ益ヲ「林區」ニ分クニ過リハカラスト余ノ思想スル
トコロノ「エビエ」ノ森林ニ於テ保存スベキ樹ノ齡ヲ定ムル
為ニ最始ニコノ思想ニ基キテ種々ナル齡又種々ナル樹ノ
庇蔭容量及ヒ價値ノ如何ナルヤヲ察知シタリ之ヒツキテ得
ル成果ハ即チ左ノ表ニ記載ス

種類	齡	庇蔭	容量	價値
山毛櫸	年	<small>1-100平方</small>	<small>1-1000立方</small>	<small>45000ヤ</small>
同	同			
同	同			
同	同			
同	同			
青割樹	同			
同	同			

大 蔵 台

第二 山毛榉

若樹 齡廿五年又價十「カンチー」ハ山毛榉ノ若樹ヲ保存スレ
 ハ其後二十五年ヲ経價二「フランク」ハ六ノ壯樹ヲ得ベシ此期ニ
 至テ故ニ
 然レモ此期ニ至テ一ニ二十五年ノ間十「カンチー」ハノ方利トハ
 利ノ相加ハルヲ損スベシ及ビニニ若シ小木コノ山毛榉ノ庇
 蔭ニ障礙セラレズシテ發生シタルトキニ小木ノ現ハスベキ増
 益ヲ失フベシ
 森林ノ所有物ニ於テ不動産トナシタル若樹ノ價十「カンチー」ハ

ノ方利ヲ算スルニハ先其土地ニテ森林ノ地ヲ貸與スル利息ノ
 割合ヲ知ラサルベカラス蓋シ森林ノ地ノ貸與ノ利息ノ割合ハ
 耕作ニ属スル地ノ貸與ノ利息ノ割合ヨリ貴シ今此ニ於テ尋ヌ
 ル利息ノ割合ハ百ニツキ三ト二分ノ一即チ三分ト估定スベシ然
 ラハ定式ヲ以テシテ十「カンチー」ハノ方利ヲ知ルベシ即チ

ニ方利ノ算用施スヨリハナンケットノ伐木割木及ヒ木價ノ事
 ニツキ公行スル昏ノ價表第一標ニコレハ最モ簡捷ナルベシコ
 ノ價表ニ於テハ定ムル利息ノ割合ニテ若干年ノ間方利ヲ以テ
 貸與シタル一「フランク」ノ増益ヲ知ラシムルナリ此價表ニ從フ
 ニ利息ノ割合百ニツキ三ト二分ノ一ニテ一「フランク」ニ
 間方利ノ合サルトキニ三「フランク」三六三トナルヲ見ルコ
 ノ高ヨリ一「フランク」ヲ減スルトキハ余一「フランク」ノ方利即チ

大 歳

ノ方利ハ即チ

ヲ得ヘシ此ニ因テ又十サンケム

ナルヲ知ルベシ

若シ若樹ノ保存セラレザルトキニ小木ノ得ベキトコロノ増益

ヲ此ニ論述スベシ抑モ此増益ハコノ若樹ニ十五年ノ間小木ニ

被ラシムルトコロノ價值ニ現ハルノ損害ニ等シトス而メ余コ

ノ損害ハ若樹ノ壯樹ノ景象ニ轉シテ受クルトコロノメイト此

立方ノ増長ノ數ニ六フランクヲ乘シテソレヲ推算シ得ベキ

ヲ發見シタリ山毛榉ノ容量ハ二十五年ニ於テ〇メイト此立方

〇一五トナス又五十年ニ於テ〇メイト此立方三三トス故ニ若

樹ノ經過シタル年ニ周^十年^二ノ間ソノ増長ハ

ナルベシ之ニ六フランクヲ乘シテ一フランクハ九

ヲ得ルナリ

前ニ云フトコロノ事ヲ此ニ畧言スレハ則チモシ山毛榉ノ若樹

ヲ保存スレハ其後二十五年ニ至テ二フランク七六ノ益ヲ得ル

トアルベシ又二ノ損失即チ〇フランク一四ノ利息ノ損失及ヒ

小木ノ成果ノ上ニテ一フランクハ九損失合セテ二フランク〇

三ノ損失ヲナストアルベシ前ノ益ヨリ此損失ヲ減スルトキハ

山毛榉ノ若樹ハ

看出スベシ

壯樹 齡廿五年ノ山毛榉ノ若樹ノ斬伐ヲ小木ノ周ヨリ遲退ス

ルノ益アルヲ證明スル後ニ又齡五十年ノコノ種類ノ壯樹ニ

アザテモ如此ク然ラシカヲ考究スベシ

五十年ニ於テ山毛榉ハ二フランクハ六ノ價值ヲ有スルノミ然

レモモシソレニ又二十五年ヲ共フルトキハ七十五年ニ於テ九

フランク四七ノ價值ニ撞着スベシ後ノ二十五年ノ尽ルニ及

故ニ

ノ益ヲ得ベシ然レモ又

利息ノ損失アルベシ及ヒ小木ノ成果ニ
於テ壯樹七十五年ノ老樹トナリテ得ルトコロノ増長ノ數ニ六
ヲ乘スルモノト殆ト等シキ損失即チ

ノ損失アルベシ此ニノ損失合セテハ「フラン」〇四トナ
ル此ニ因テ觀レバ利益ヨリ損失ノ超過スル「

一「フラン」四三トス如此キハモシ山毛榉ノ壯樹ヲ保
存スレバ必ズ損失アル「」ヲ証スベシ

此損失ハモシ壯樹ノ山毛榉ノ処ニ小木ニアラスシテ若樹ヲ養
ヒ得タルトキハ更ニ最モ甚シカルベシサレドモ平生コレヲ為

シ得ル「」ナリ實ニ七十五年ノ山毛榉ノ庇蔭ハ四十一「」ト此
平方ナリ而シテ五十年ノ山毛榉ノ庇蔭ハ二十「」ト此立方ニ

過キス然ラバ庇蔭ノ二十五年間ニ達スルトコロノ廣濶ヲ變
易セズシテ山毛榉ノ壯樹ニ交換スルニハ同一種類ノ若樹ノ

ヲ以テスルヲ得ベシ如此キ、場合ニ於テハ則チ小木自由ニ

發生シテ受ケルトコロノ増益ノ外ニコノ山毛榉ノ若樹ハ上ニ

云ヘル七十三「」カンチ「」山ノ増益ノ故ニヨリテ此ニソノ若樹ノ
増益ヲ見ハスベシ此ニ因テ觀

ルニ現在ノ場合ニ於テモシ山毛榉ノ壯樹ヲ保存スレバソレニ
由テ出来スルトコロノ損失ハ一「フラン」五〇ノ増數アルベシ

而シテ純然ノ損失ハ故ニ一「フラン」四三ヨリ二「フラン」九三
ニ至ルベシ

此ニ於テ山毛榉ノ壯樹ニ若樹ヲ交換シ得ルモ或ハ交換シ得サ
ルモコノ壯樹ノ斬伐ノ上ニ功效アルヘカラス如何ニトナレハ

二十五年ノ新周ノ後ニ至テソレヲ斬伐スルニ於テハ都テ損失
アレハナリ唯損失ニ多少アル、此後ニ壯樹ノ青割樹ニハコ

ノ題目余ノ考究スルトコロノ森林ニ於テ太ハタ緊要ナル「」ナ

大 歳

論スベシ今コレニ若樹ヲ交換シ又ハ元テ或齡ノ好樹
 ニ最モ若キ貯樹ヲ交換スルハ是ナルガ非ナルカ思量スヘキ點
 ニツイテ言ヲ發スルハ小木ニ於テ大木ヲ斬伐スルトノ上ニ如
 此キ愉快ノ一點ニ至テハ未タ曾テ我師トスル治森者ノ理解セ
 ガリシモノト見ヘタレバナリナンケツトハ最モ老タル樹ヲ貯
 存スレハ出末スベキ損失ヲ測量スレバ唯小樹ノ損失ヲ亡失ス
 ル利益ノ中ニ編入シテ記スルノミ
 老樹 七十五年ノ山毛榉ハ九「アラシ」四七ノ價值アリ而シテ
 其後二十五年ヲ経テ二十一「アラシ」四七ノ價值ニ及ヘリ此時
 ニ於テハソレヲ貯存シタルトコロノ人ニ
 ノ利益ヲ與フベシ又
 ノ損失及ヒコノ老樹ノ占処シタルノ故ニヨリテ未ル損失ヲ與
 フヘシ齡七十五年ノ山毛榉ノ斬伐ヲシテナホ二十五ノ後ニ

アラシムルハ如何程ニ損失アルヤヲ明白ニスルガ為メニ今コ
 ノ此ニ第一ノ損失ヲ算スルハ無益ナリトス如何ニトナレハ
 唯ニ山毛榉ノ價值ノ利息ノ損失スラ二十五ノ間ニツク得タ
 ルトコロノ増益ニ超越スベキカ故ナリ
 又記臆 夕メニ左ノ言ヲ加ヘシモシ一周ニテハ
 ノ老樹反ツテ清利ヲ顯ハシタルトキハ一十年ニ及テ山毛榉ヲ
 斬伐スルニ於テ益アルガ故ニ此一層ノ前二十五年ニ生スル清
 損及ヒ山毛榉ノ利息ノ損失ヨコノ清利ノ中ニ減スルモ又潤益
 ナキ「アラシ」ベカラズ
 第三 シヤルム
 若樹 山毛榉ノ貯樹ニツイテノ如ク施為スルニ「シヤルム」ノ若
 樹ハ二十五年ノ末ニ「アラシ」六九ノ利益ヲ見ハシ又「アラシ」
 二四ノ利息ノ損失及ヒ小木ノ成果ニ於テ「アラシ」四〇

ノ損失即チ合セテ〇「フラン」ク六四ノ損失ヲ見ハスベキ「知
ル」総損失ニ利益ヲ超出スルモノ故ニ〇「フラン」ク〇一ナルベ
シ
壯樹 其後二十五年ヲ経テ壯樹トナシテ「シャル」ト伐取スレ
バ一「フラン」ク六四ノ利益ヲ共フベシ又一「フラン」ク一三ノ利息
ノ損失及ヒ小木ノ成果ニ於テ〇「フラン」ク九〇ノ損失即チ合テ
ニ「フラン」ク〇三ノ損失ヲ共フヘシ然ラハ利益ニ損失ノ超出ス
ル「〇」「フラン」ク三九ニ及フベシモ此壯樹ノ代ニ若樹ヲ保存
シタルハハ損失ナホコレヨリ最モ甚シトスベシ
老樹 齡七十五年ノ「シャル」ト更ニ二十五年ノ生ヲ保チテ得ル
トコロノ増益ハ斬伐ノコノ遅緩ニ由テ生スル利益ノ損失ガモ
償フベカラサル「又」ソレニ因テ老樹ヲ保存スレハ大ニ損失ヲ
受クベキ「知」ラントセバ此増益ヲ認ムルニアルノミ

第四 青剛樹

若樹 青剛樹ノ若樹ハ一「フラン」ク六五ノ利益ヲ共フベシ又〇
「フラン」ク三四ノ利息ノ損失及ヒ小木ノ成果ニ於テ〇「フラン」ク
九〇ノ損失即チ合セテ一「フラン」ク二四ノ損失ヲ共フベシ此ニ
因テ総損失ニ利益ノ超過スル「〇」「フラン」ク四一ナルベシ
壯樹 壯樹ハ五「フラン」ク一二ノ利益ヲ頭ハスベシ又二「フラン」
ク五九ノ利息ノ損失即チ合セテ四「フラン」ク六三ノ損失ヲ頭ハ
スベシ総損失ニ利益ノ超出スル「〇」「フラン」ク四九ナリト
スベシ
然リト童氏モシ青剛樹ノコノ壯樹ニ若樹ヲ代ラシメ得タルト
キハ「〇」ノ結果此若樹ノ種類ニ因テ甚ハタ異ナル「知」シモ「シヤ
ル」トナルトキハ此障ニ障礙セラレザル小木ノ得タルトコロノ
増益ノ外ニ
ノ益ヲ共フベシ壯樹ヲ

保存シテ收穫スルノ利潤ハ其時〇アラシク四六ニ減スベシ
 モシ此若樹山毛榉ナルトキハ被蔭セラレザル小木ノ増益ノ外
 ニ
 ノ益ヲ共フベシコノ想像ニヨリテ觀
 レハ壯樹ヲ保存スルハ利潤ヲ得ルニ非ズ却テ〇アラシク三九
 ニ昇リタルトコロノ清損ヲ受クルニアルベシ又モシ若樹青割
 樹ナルトキハ自由ニ生奈シタル小木ノ増益ノ外ニ
 ノ益ヲ共フベシ而シテ壯樹ヲ保存スルニ於テ畏ル
 ベキ清損ハ〇アラシク四九ニ上ルベシ
 七十五年ノ老樹 壯樹ノ保存ニ於テハ伐取スベキ樹ニ打号ス
 ル時壯樹ニ代ルタメニ小木ニアルトコロノ樹ニ随テ利潤アリ
 或ハ損失アルベシ七十五年ノ壯樹ニ於テハ如此ク然ラズコノ
 壯樹ノホ一新周ノ間保存セラレハ必ズ損失ヲ頭ハスベシ而
 シテソノ頭ハス損失モシコレニ代ラシムルニ若樹アラサルト

一ハ二アラシク九六ニ及フベシモシシヤルハ若樹ヲ代ラシ
 ムルトキハ三アラシク〇一ニ及ブベシ山毛榉ノ若樹ナルトキ
 ハ四アラシク一五ニ及フベシ青割樹ナルトキハ四アラシク二
 九ニ及フベシ又青割樹ノ壯樹ノ壯樹ナルトキハ三アラシク六
 二ニ及フベシ
 百年ノ老樹 此齡ノ老樹ヲ保存スルコトハモシ百二十五年ニ於
 テソレヲ斬伐セント欲セハ是最モ著大ナル損失ヲナスベシ又
 百五十年ニ於テソレヲ斬伐セント欲セハ此損失更ニ最モ甚ハ
 タシカルベシ
 第五 木價ノ將來ノ騰貴
 人口ノ増殖貨幣ノ低落及ヒ開墾ハ森林ノ産物ノ價値ノ上ニ漸
 クニ進昇スル増益ヲ未スベシ大木ノ樹ノ斬伐ヲ譬ヘバ二十五
 年後ニアラシムルコトニ於テ利益アルカヲ知ラント欲スルト

キハコノ價值ノ將來ノ騰貴ヲ察セザルベカラズ此目的ニ達セ
シトモハ既述ニ生シタルトコロノ騰貴ト目今森林ノ業ヲ圍繞
スルトココノ情狀トニヨリテ二十五年ノ後ニ生スル騰貴ヲ推
知スミシ然レテココノ年數ノ後斬伐スベキ樹ノ將來ノ價值及ヒ
此期ニ至テ生スベキトコロノ益ヲ估量スベシ然レモ木ノ價值
ノ將來ノ騰貴ヲ估量スルニ於テハ甚ハダツノ弱ナルヲ要
セザルベカラズ如何ニトナレハ森林ノ地ノ貸典ノ利息ノ割合
ハ森林ノ將來ニ於テ得^得ベキトコロノ價值ノ増益ト既ニ少シク
閑スル故アレバナリ

特殊ノ場合ニ於テハ余ノ測算ニココノ將來ノ騰貴ヲ入ルヲナシ
如何ニトナレバ森林ノ貿易ノ係ルトコロノ特別ノ情由アルニ
因テココノ將來ノ騰貴ハナカルベキモノ或ハ感セザルベキモノ
如キが故ナリ冶金業ハ數年法蘭西全國森林ノ木産ノ五分ノ

一ヲ耗シタルトコロノモノニシテ我地方ノ森林ニ於テソノ木産
ノ五分ノ一ノ余ヲ買フ然ルニ鑄鉄場及ヒ溶鑪爐ハミナ現今木
料ヲ耗ヤスヲ少ナク生石炭及ヒ燒石炭ヲ耗ヤスヲ多シ故ニ必
ス多年ヲ出スニテ鑄鉄場及ヒ溶鑪爐ハ礦出ノ燃料ニ非スハ
殆ト用ザルニ至ルベシ同シク生石炭ニ諸ノ製造ノ火爐ニ於
テ木質ノ燃料ニ易ヘラレ又日用ノ火爐ニ於テモ用ヒラレント
ス此時ヨリシテ木料ハ僅ニ用ヒラレバ木料ハ將來價值ヲ
増スヲ得ベカラズ農業ヲ施スヲ有益ナリトセラル、森林
ノ開墾又工匠ニ用ル木財ノ培養カ他ノ森林ニ於テ得タルト
コロノ最モ盛昌ノ光景ハ唯薪木ノ下落ヲ阻礙スルニ過ケヘカ
ラザルモノト見ヘタリ工匠ニ用ユル木財ハコレ善ク其價值ヲ
保リベク見エト雖モ將來ニ至ニ重要ナル騰貴ヲ受クベカラズ
如何ニト云フニ鑄鉄及ヒ紙鐵ノツルニ競争ヲナシ又既述ヨリ

ハ此木財ノ多ク森林ニ産セシムルカ故ナリ又預占スル心アル
政府ハ法蘭西ノタメニ国用及ヒ工造ニ備フベキ木ヲ貯フルヲ
旨トシテ其森林ヲ大木ニ変セシムルカ故ナリ又外國ノ森林ノ
未タ衰弱セザルモノハ永久ノ間大ナル方寸ノ木ノ多キ不足ノ
敷ヲ我ニ補フヲ断ツベカラサルカ故ナリ

第五章

擇テ保存スベキ樹

保存セラレタル諸ノ樹ヲ斬伐スベキトコロノ齡ヲ定メタルト
キハ又大木ニ養成シテ利益ヲ多ク生スベク而シテ故ニ選樹法
ノ擇抜スベキトコロノ樹ヲ尋覓スルヲ要スコノ題目ヲ辨説
スル為ニ余山毛榉ニモセヨシヤルムニモセヨ青剛樹ニモセヨ
特ニ其一ヨリ形テツクラルル、貯樹ヲ考ヘントス
但シコノ思想ニ於テハ余此大木ノ庇蔭ノ限界トシテハ混淆ス

ル大木ノ庇蔭ニナケルガ如ク林区ノ二分ノ一ヲ許スヲ得ベ
シ実ニツノ情状ノ異ナルヲ明カナリ然レモエトノ森林
ニ於テハ特ニ各種ノ木ニテモ庇蔭ニ至テハ同一ノ限界ヲ許ス
ヲ得ベキガ如シ唯諸種ノ混淆スルモノヨリハ少シク精密ナラ
スト雖ハ大ナル謬誤アルヲナシ余此意見ヲ審ニスル為ニ次
ニ述ルトコロアルベシ青剛樹ハ縦令ヒシヤルムヨリ最モ稀薄
又山毛榉ヨリ更ニ最モ稀薄ナル庇蔭ヲナスト虫モコレボノモ
ノヨリ大ニツノ庇蔭ヲ擴張シ得ル能ハサルヲハ第一オシキ廣
淵ノ庇蔭ナレハ青剛樹ノ貯樹ソノ選樹ニ於テハ樹ヲ減少スル
ヲ山毛榉或ハシヤルムノ貯樹ソレボノ選樹ニ於テ樹ヲ減少ス
ルト殆ト同シカラスンハ有ヘカラサレバナリ芽ハ青剛樹ハ山
毛榉ヨリ生発スルヲ甚ハク少ク又シヤルムヨリモ同シク微ナ
レバナリ又芽三ニヤルムハ山毛榉ヨリ生発スルヲ少ナシトセ

ハ等シキ庇蔭ニテハ小木ニ害ニル下却ニ少ナケレバナリ
山毛榉ヨヤル山及ヒ青割樹ノ大木ニツキ殆ト当ルベキ庇蔭ノ
限界ヲ認ノタルトキハ余コノ種ノ孰レカ最モ利益アル大木ト
ナルヤヲ知ラントスル下ハ困難ナラザルベシ
モシ山毛榉ノミヲ保存スルトキハ五十年ニ其庇蔭ニ十ノ一ト
ル立方ナレバ一「エクタ」ルニツキ
即チ二百五十ノ若樹
ヲ保存スルヲ得ベシ各々〇「ア」ラシク七三ノ清利ヲ共フルトス
レハ二百五十ノ若樹ハ
ノ清利
ヲ共フルベシ

モシ「シヤル」山ノミヲ保存スルトキハ一「エクタ」ルニツキ又
即チ七百十四ノ若樹ヲ保存スルヲ得ベシ而シテソノ總清
利ハ
ト「カ」リ
モシ青割樹ノミヲ保存スルトキハ一「エクタ」ルニツキ

即チ五百トスベシ清利ハ
ナリ

モシ若樹ノ不足ナルカ故ニ五十年ノ青割樹ノ大木ヲ伐ラズシ
ラ後七十五年ニ於テ伐ルタノニ其レヲ保存スル下ハ遠当トス
ルトキハ青割樹ノ若樹ト比較シタル下ハ壯樹ヲ保存スベシ然
ラハ青割樹ハ五十年ニ於テハ十ノ一ト「エ」平方ノ庇蔭ヲ有シ又
七十五年ニ於テハ二十四ノ一ト「エ」平方ノ庇蔭ヲ有スルカ故ニ
即チ
ハ特ニ青割樹ノミノ大木ヲ形チツクル
為メニ一「エ」クタ「ル」ニツキ保存スベキ若樹ノ数トスベシ又同シ
ク壯樹ノ数トスベシ而シテ希望スベキ清利ハ百四十七ノ若樹
ニツキ
トスベシ又百四十七ノ壯樹
ニツキテハモシ之ニ場フルタノニ「シヤル」山ノ若樹ニ非シハ得
サレトキハ此清利
トナルベシ此二
ノ清利ヲ合スル下キハ百二十七「ア」ラシク八九トナルナリ

以上云フトコロノ事ヲ此ニ畧シテ云ハシ一貯樹ノ興フルトコ
ロノ清利ニ随テソレヲ分類スルトキハ青割樹ノ若樹ヲ第一
トシ山毛榉ノ若樹ヲ第二トシ青割樹及ヒ山毛榉ノ若樹ノ不
足ノ場合ニ於テハ青割樹ノ壯樹ヲ第三トシ及ビシヤルムノ
若樹ヲ第四トスベシ

第六章

選樹ノ方法ト年齢及ヒ種類ニヨリテ最モ利益アル貯樹
ノ發育ノ一致スベキ情由

第一 自然ノ播種

伐木ニ於テ大木ノ頭ハストコロノ果實ニヨルニモシ大木小木
ニツキ利益アルベキトキハ却テ大木ハ種子ヲ生シ而シテ之ヲ
撤布スルタメニ小木ニ欠グベカラザルモノ、如クニシテ新シ
キ苗ヲ造リ而シテ枯死スルトコロノ切株ノ交換ニ故ニ助クベ

シ故ニコノ小木ノ產生スルヲ保タシガ為メニ樹ノ年齢或ハ
ソノ種類ニヨリテ伐木ノ時少ク利益アリ或ハ利益ナカルベ
キトコロノ樹ヲ貯樹ノ中ニ置クノ不得已ニ會スルヲ屢ナリキ
縦令ニ壯樹ヲ經歷スルタメニ第三周ノ間山毛榉ハ恒ニ損失ヲ
興フヤ、又青割樹モ偶然ニシテ定ムベカラズト虫氏如此クア
ルヲ免レズ然レモ青割樹又山毛榉ノソノ種子ヲ盛ニ生スル
ハ此壯丁ノ年齒ニ違ヒタルモノニ在ルカ故ニ貯樹ノ中ニ於テ
ルシク其壯樹ヲ置サルベカラズ又同シクシヤルハソノ生長
ノ速ナルニ因リ又ソノ切株ノ寔ニ長活ナルニ因テ小木中實ニ
尚ブベキ種ナレモソノ生殺ヲ遅カラシムルトコロノ大木損棄
セラル、ヲ要セズ然レモ其幼ヨリ榮ニ向フシヤルハ唯二周
ノ同生活スベキ、ミ故ニ其種子ヲ多ク興ヘシムルニモ若樹ト
シテ保存セラル、ニ止マルマシ

第二章 叢樹ノ混淆

宜シク混淆シタル森林ノ樹ハツノ純然一色ナルモノヨリ最も
成果アルベシ此事ニツイテハ「エチリテ、デー、アツヤフルマン、ホ
レスチユト題セシ小冊子ニ於テ余既ニ甚ハタ長ク思想ヲ露列
シタレバ再ヒ此ニツレテ辨スルヲ要セズ余誰山毛榉及ヒ「シヤ
ルムニ青剛樹ノ混淆ハ何ノ故ニ利益アルベキヤノ事ヲ云ハン
ト欲スルノミ夫レコノ混淆スルノ利益アルトハ此オノ樹其根
ヲ谷異ノ深潤ニ潛入スル故ニアラス如何ニト云フニ此オノ樹
ハ深ク根ヲ「カンチメートルニ起ヘザル植物地ノ中ニツラ根ヲ
居ラシメサルヲ得ザレバナリ然ラバ則テコノ利益アルトハ
此オノ樹同シカラザル生活ヲナシテ其ノ相互ニ害スルト少ナ
カルベキ故ナリ又此オノ樹ハ種異ノ病症ニ羅ルノ故ニコレヲ
交通スルヲ能ハサルベケレバナリ又青剛樹ハ其庇蔭淺薄其性

質僅ニ發進スルモノナレバ近傍ノ樹木ノ發展スル肥沃及ヒ清
涼ノタメニ利スベキ故ナリ又或切株ノ枯死シタルトキハソノ
処ニ於テ最も適當シテ生發スベキ他種ノ切株ヲ植ユルヲ得
ベキ故ナリ如此クニ青剛樹ヲ山毛榉及ヒ「シヤルムト混居養成
セシムル而テ而後青剛樹ニ混培ノ利益ヲ保ツトコロノ貯樹ヲ此
オノ種ニテナサザルベカラス

第七章

選樹ノ方法ノ制定

第一 選樹ノ本ナル小木ノ教

森林ノ選樹ヲ管理スルノ前ニ於テハ斬伐スベキ樹ニ打号スル
時ソコニ看出スマキ各種ノ若樹ノ教ヲ定ムルニ於テ森林ノ樹教
及ニ生發ヲ知ガルベカラズ「エピエーノ森林ニ於テ如此キノ故ニ
ナシタル觀察ニテハ余斬伐セザルベキ小木ノ一「エクタニツ

キ若樹トスベキモノニ於テ青割樹四十山毛榉一百及ヒシヤル
ハ選樹ノ主意ヨリ甚ハタ超越スルヲ認メタリシナリ

第二 斬伐スルノ宜シキ齡ニ達スベカラザルコトノ貯樹
ノ教

右ニ述フル要件ノ外ニマタ若樹ヲ襲セコレヲシテ五十年ノ齡
ノ前ニ滅セシムルトコロノ禍災及ヒ疾病ヲ察セサルベカラ
ス而シテ其若樹ニ第三周ヲ經過セシノ得スレテ此齡ニ於テソ
レヲ斬伐セサルヲ能ハス余ハ若樹ノ罹ルトコロノ変異ニソノ
免レシテ衰廢スベキモノノ數ヲ十分ノ一ト估定シタリ及ヒ
七十五年ノ齡ニ至ルマテ繁榮スル能ハス故ニ五十年ノ齡ヨリ
レテ斬伐スルヲ要スベキ痼疾アル青割樹ノ若樹ノ數ヲ十分
ノ一ト估定シタリ
今マテ余貯樹ニ於テコノ衰頹ヲ云ハザルハ是論説ヲ易カラシ

ムル為ナリ而シテ此又典ハ余ノ講及シタルトコロノ道理ヲ脚
破壊スルヲアラス如何ニトナシハ衰頹ノ樹ハ終滅セラレタル
ニ非ザレハナリ故ニ其樹ハ用ヒラルベシ而シテソノ達スルト
コロノ齡ニ随テ常ニ價値ヲ得ベシ

第三 一「エ」クタルニツキテノ選樹ノ方法

第一周 四十ノ青割樹ノ若樹ヲ保存セントスレハ其中唯ニ三
十六ノミ五十年ノ齡ニ達シタルモノニ在ルベシ然ル時ハ三百
六十ノ一トシ平方ノ庇蔭ヲ被スベシ及ヒ一百ノ山毛榉ノ若樹
ヲ保存セントスレハ其中唯ニ九十ノミ五十年ノ齡ニ達シタル
モノニ在ルベシ然ル時ハ一千八百ノ一トシ平方ノ庇蔭ヲ降ス
ベシ及ヒ小木ニ於テ種生スルヲ保テ又適當ナル混淆ヲ保ツ
為ニ小數ノ山毛榉ノ若樹ヲ保存スベシソノ數ハ十本ヲ限トス
而シテ此十本ノ若樹ハ後二十五年ヲ経レバソノ庇蔭ヲ廣ムル

四百十メートル平方ニ及フベシ此ニ右ノ三者ヲ合スレハ通
計二千五百七十メートル平方ナリ其他素性ノ甚ハク善良ナル
青剛樹ノ壯樹ヲ都テ保存シ及ビ共ニ「シャルム」ニハ若樹ヲ保存
ス然レテ伐木ノ後ニ至リ五千メートル平方ヲ含包スルトコロ
ノ庇蔭ヲ為ルベシ

第二周 第一周ヲ過キレハ五十年ノ青剛樹三十六アルベシ当
時ノノ三十二ヲ保存ス而シテ此青剛樹ハ三十五年ノ末ニ七百
六十八メートル平方ノ庇蔭ヲ興フベシ第一周ノ始ヲノ如ク復
タ施為スレバ二ノ異ナル年數ノ山毛榉及ビ青剛樹ノ保存セラ
レタルモノハ其庇蔭ヲ二千五百七十メートル平方ノ上ニ廣ム
ベシ即チ前ノ二數ヲ合スレバ通計三千三百三十八メートル平方
方ナリ又大木ヲ蒐集スル為メ「シャルム」ノ若樹
ヲ保存スベシ即チ二百二十七ナリ但シ風破セラル、樹

アルニ因テ其九分ノ一ヲ増加スルトキハ前ノ數ハ二百六十三
ニ昇騰スベシ
如此トハ又以後ノ周ニ於テ倣フベキトコロヲ定則ノ選樹トス
ベシ

第四 注意

余此上ニ掲クルトコロノ選樹ノ方法ハ「エピエ」ノ森林ノ一般
ノ樹ニ用ヒラルベキモノトス而シテ此森林ニ於テ種々ノ処ノ
現ハス差異ナル情状ニモ又同シ処ノ點々ノ露ハス様々ナル場
合ニモ用ユルモノトスベカラス是ニ因テ樹ノ此差異ナル情状
及ビ此様々ナル諸ノ場合ニ適應セズ又適應スル能ハサルカ故
ニ余ノ不動ナル選樹ノ法ハ「コレオ」ニ施スベカラズシテ而シ
テ蓋ナク見ヘタリ他ノ此方法モ皆同シク如此キ有様ナルトキ
ハソノ創造ハ精神ヲタノニ快樂ノ遊戯ニシテ又現行ノタメニ

無実ノ想像ニ非ザルハナキモノ、如シト然リト雖モ凡定見ハ
誤ルト云フベシ選樹ノ方法ハ全キ一ノ森林ニ用ヒラル、ト能
ハザルベキニ由テ此森林ノ為ニハソレヲ多ク整齊スルヲ要
ス然シテ都テ發頭スルトコロノ場合ニ施用スベキ方法ヲ時々
其中ニ擇マダンバ有ベカラズ其他我森林ニ於テ選樹ノ延フベ
キトコロノ道理ノ精神ニ存止スルヲ以テ足レリトス而シテ人
伐木ノ記号ヲ打シタルトコロノ林区ニ随テ直ニ選樹ノ方法ヲ
折衷スベシ如此クナレハ必ズ偶然失敗スルヲナク又必ズ障礙
セリレ、トナカルベシ之ト異ナリテ豫知スヘキ選樹ノ方法ヲ
己レニ具ヘスシテ以テ林区ニ記号ヲ打スルトコロノ人ハ暗然
ニ事ヲ施スベシ又或ハ其人ハソノ役スル無智怠慢ナル守森者
ノ行フトコロノ事ヲ記録スルノ業ニ過キザルベシ

第八章

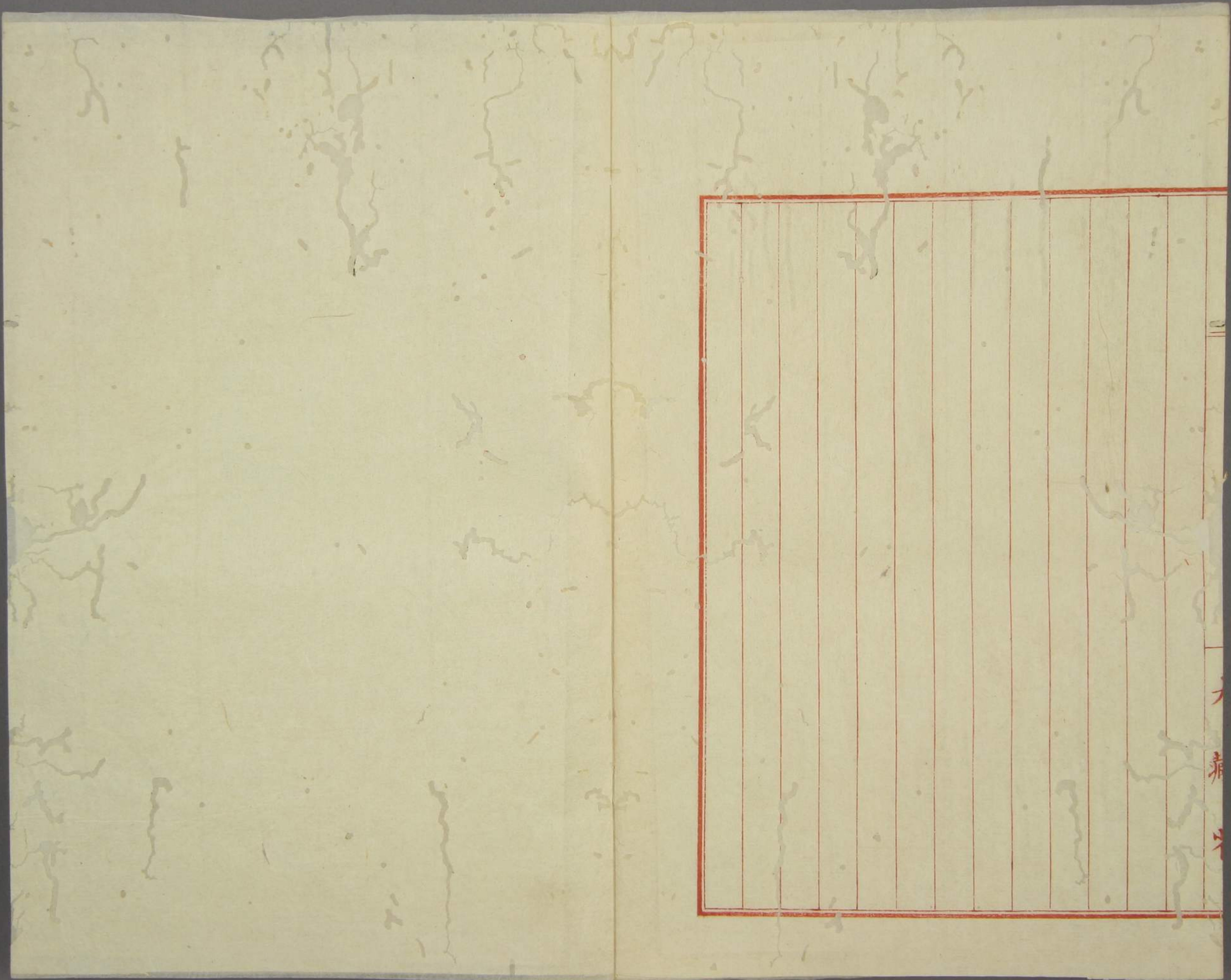
修善

此ニ論スル森林ニ於テハ山毛榉ノ若樹又就中青割樹ノ若樹甚
ハタ稀少ナルヲ見ル大木ヲ充塞スルガ為メニ都テ素性ノ善
キ青割樹ノ壯樹及ヒ播種又混着ニ主意ヨリ更ニ多キシヤルハ
ノ若樹ヲ保存セサル能ハザルホドナリ選樹ノタメニ什分ノ樹
ヲ採ツニハ故ニ青割樹及ヒ山毛榉ヲ増殖スルヲニ心ヲ用ユル
ヲ要ス此事ニツイテハモシ此ホノ種子ヲ生シタルトキソノ
散落ノ後直ニ人ヲシテ鋤ヲ持シメ若キ小木ノ中彼此ニ青割樹
及ヒ山毛榉ノ種子ヲ地ニ埋入セシムベシ然シテ後土地ニヨリ
テ其種子ノ最モ畏ルベキ敵トスル寒氣ヲソレニ擇ムベシ如此
クシテ以テ得タルトコロノ種生ハ後ソレニ害スル草ヲドヲ懇
切ニ艾除シテ保護スベシ
時トシテハ青割樹ノ苗ヲ植ルニ會セサルヲ得ス然レド此施

為、最モ易事ニ非ス伐木ノ後林區ノ地ニ青割樹ノ苗ヲ植テ得
 ベキ成果ヲ算スルタメニ、約、祭スベシ即チコノ苗二十五年ノ末
 ニ若樹トナルニハ其生長甚ハク速シク又此期ニ於テソレヲ伐
 取セザルベカラザルナリ然ラハ青割樹ノ若樹ヲハルナハ五
 十年ヲ経ルニ非サレハ能ハサルベシ五十年ノ期ニ至テ斬伐ス
 ルタメニ保存スルトコロノシヤルムノ價值ノ上ニ
 ノ益ヲ見ハスベキ青割樹ヲ造ルナハ
 七十五年ニ及ハサレバ故ニアラザルナリ青割樹ハ株生ノ苗
 ニシテヨ或ハ種生ノ苗ニモセヨ速々發生シ而シテ五十年ニコ
 ノ益ヲ生スト見做ストキハ青割樹ノ苗ニツキ企望
 スベキ利得ノ價值ヲ推シテ算スベシ而シテ此利得ハ
 ナルナリヲ看出スベシシヤルハ若樹ヲ唯減省スル為メニモシ青
 割樹ノ少々ノミヲ植テ而シテノノ斬伐ノ期ヲ七十五年ト定ム

ルトキハ青割樹ノ苗ニツキ收穫スベキ利得ノ價值ハ
 ニ昇ルナリヲ同シク看出スベシ此オノ價值ヨリ植タル苗ノ價值
 ヲ抽去スレバ栽植ニヨリテ来ルトコロノ清利ヲ知ルベシ

大
 歳
 首



六
第
一

